

第5章 資料編

1. 用語集

	用語	意味
1	CO ₂ 排出量	使用したエネルギー量に対する二酸化炭素の排出量。活動量（エネルギー使用量）に排出係数をかけ算出する。
2	CO ₂ 排出係数	単位活動量あたりのCO ₂ 排出量のこと。
3	フードロス	食料ロス（食べ物の量的もしくは質的な価値が減少すること）と食料廃棄（食料ロスの一部で、特にまだ食べられるのに捨てられているもの）の総称（＝食品ロス）。
4	食品残さ	食品の食べ残し、廃棄。
5	ライフライン	電気・ガス・水等の公共設備や電話・インターネット等の通信設備、モノや人を運ぶ物流機関などの日常生活を送るために必須の諸設備。
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力その他非化石エネルギー源のうち、エネルギー源として持続的に利用することができるものと認められるものとして、政令で定めるもの（エネルギー供給構造高度化法）。
7	NIE（newspaper in education）	学校などで新聞を教材として活用すること。
8	資源化量 （直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量）	主に焼却灰から回収された金属、骨材等で利用されたスラグの数量のこと。また、ガス化熔融施設等での燃料ガスの回収量も計上。
9	在来種	もともとその生息地に生息していた生物種の個体および集団のこと。
10	エコロジー	生物と環境の相互作用を扱う「生態学」という意味。ここから、環境に配慮した活動などを「エコ」と呼ぶ。「生態系」はエコシステム。
11	エコカー	環境への負荷が小さい、環境に良い車。電気自動車や、ハイブリッドカーなど。
12	排気ガス	ガソリンや軽油といった燃料が車のエンジンや発電所で燃焼する際に発生するガスの総称。
13	PM2.5	大気中に浮遊している2.5μm（1μmは1mmの千分の1）以下の小さな粒子。非常に小さいため（髪の毛の太さの1/30程度）、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響がある。
14	エコドライブ	環境に良い車の運転方法。緩やかに発進したり、無駄なアイドリングを止めるなどして燃料の節約に努め、二酸化炭素の排出量を減らそうとする、国をあげて推進している運動。
15	マイクロプラスチック	サイズが5mm以下の微細なプラスチックごみのかげら。自然界では分解に数10～数100年かかると言われる。
16	PDCA サイクル	Plan（計画）、Do（実施）、Check（点検）、Action（是正、見直し）の意味。品質向上のためのシステムの考え方。
17	生活排水	台所、トイレ、風呂、洗濯などの日常生活からの排水。

18	BOD	Biochemical Oxygen Demand の略。生物化学的酸素要求量のこと。水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のこと。
19	COD	Chemical Oxygen Demand の略。化学的酸素要求量のこと。酸化剤によって水中の有機物を酸化分解させ、その際に消費される酸素の量のこと。
20	生物多様性	生きものたちの豊かな個性とつながり。「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」という3つのレベルの多様性がある。
21	渡り鳥	毎年定まった季節に、繁殖や越冬などの目的を持って長い距離を移動する鳥。
22	森林生態系	森林を森林として成り立たせているしくみ。生物や、水、空気、光などの環境、様々な生態系がつながりあって森林が成り立つ。
23	固有種	その地域、国など、その場所でしか見られない生物の種。
24	世界自然遺産	「顕著な普遍的価値」を有し、世界で唯一の価値を有する重要な地域として認められた自然。世界自然遺産として登録されるためには、「自然美」「地形・地質」「生態系」「生物多様性」のいずれかを満たす必要がある。
25	フィールドワーク	調査対象の現地に赴き、採集・調査・研究などを行うこと。
26	生物季節	植物および動物の状態が、季節によって変動すること。

2. 参考引用文献・資料

	文献	著者名	発行日
1	気をつけよう！！海のキケン生物 Venomous Marine Life in Okinawa	沖縄県保健医療部	—
2	サンゴのはなし —おきなわの造礁サンゴたち—	沖縄県文化環境部	2002.3
3	おきなわ自然さんぽ	鹿谷麻夕・鹿谷法一・藤井晴彦・佐藤寛之	2015.5
4	中城湾泡瀬地区生物ハンドブック —海辺の生きものたち—	沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所中城湾出張所	2007.11
5	サンゴしょうのおとぎ話 なかよし家族の観察ノート	土屋誠	2016.8
6	沖縄のサンゴ礁	西平守孝	1991.12
7	日本の爬虫両生類 157	大谷勉	2009.4
8	改訂版 沖縄の野鳥	沖縄野鳥研究会	2010.5
9	生態写真と鳴き声で知る沖縄のセミ 全 19 種	佐々木健志・山城照久・村山望	2006.7
10	生態写真と鳴き声で知る沖縄の力エル 全 20 種	佐々木健志・山城照久・村山望	2016.6
11	沖縄の身近な昆虫図鑑	湊和雄・上杉健司・村山望	1984.8
12	シリーズ沖縄の自然⑦木の実・木のたね	澤岬安喜	1983.12
13	沖縄昆虫野外観察図鑑第 1 巻～7 巻	東清二 編著 堀繁久・金城政勝・湊和雄・村山望・上杉兼司	1987.1
14	生態写真で見る 沖縄の蝶	具志堅猛 編著 知花聡・上間勝正・潮崎滋久・豊口敬	1999.8
15	沖縄の民具と生活 —沖縄の民族誌 I—	上江洲均	2005.11
16	増補訂正 琉球植物目録	初島住彦・天野鉄夫	1994.11
17	増補改訂 琉球列島産昆虫目録	東清二 監修	2002.5

3. 沖縄県環境教育プログラム改訂・検討委員会

平成30年度・令和元年度 沖縄県環境教育プログラム改訂版作成委託業務検討委員会委員

委員長	新垣 裕治	名桜大学国際学群長
委員	清水 洋一	琉球大学教育学部 教授
委員	大島 順子	琉球大学 国際地域創造学部 准教授
委員	宮里 恵美子	金武町立中川小学校 教頭（平成30年度）
委員	佐伯 賢	金武町立中川小学校 教頭（令和元年度）
委員	石井 貴徳	北谷町立北谷中学校 教諭（理科）
委員	林 尚美	沖縄県立総合教育センター 理科研修班 主任研究主事
委員	古我知 浩	沖縄リサイクル運動市民の会 代表
委員	鹿谷 麻夕	しかたに自然案内 代表
委員	安里 修	沖縄県環境部 環境再生課 課長
委員	神村 智子	沖縄県教育庁生涯学習振興課 生涯学習班 社会教育主事

（順不同、敬称略、所属は2020年1月現在）

※沖縄県環境教育プログラム改訂版作成委託業務

受託者：株式会社沖縄環境経済研究所・一般財団法人沖縄県公衆衛生協会・
株式会社碧コンサルタンツ共同企業体

（代表者：株式会社沖縄環境経済研究所

〒904-2234 沖縄県うるま市字州崎12番地57

TEL:098-934-4231 FAX:098-934-4232

おきなわ環境教育プログラム集（社会教育編）

2020（令和2）年3月 発行

発行 沖縄県環境部 環境再生課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

TEL:098-866-2064 FAX:098-866-2497

※本冊子は、令和元年度沖縄県環境保全基金事業として作成しています。